

令和7年度第1回中央区支え合いのまち推進協議会 議事要旨

日 時：令和7年7月9日（水曜日）
午前10時30分～午前11時48分
場 所：中央保健福祉センターボランティア活動室
出席者：委 員 23名（欠席5名）
事務局 13名
傍聴人 0名

【1】次 第

- 1 開 会
- 2 中央区長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 中央区支え合いのまち推進協議会について
- 5 議題
 - (1) 委員長・副委員長の選任について
 - (2) 幹事会委員の選出について
 - (3) 令和6年度の地域活動取組状況報告書の確定について
 - (4) 高齢者のゴミ出し支援について
- 6 その他
　令和7年度のスケジュールについて
- 7 閉 会

【2】議事要旨及び発言要旨

<開会>

- ・委員28名のうち、23名の出席を確認して開会した。
- ・区長あいさつ後、委員及び事務局職員の紹介を行った。
- ・事務局から会議の公開について説明があった。

<中央区支え合いのまち推進協議会について>

委員改選後1回目の開催であるため、中央区支え合いのまち推進協議会の概要について資料1により中央区高齢障害支援課矢野主査が説明した。

[質問等なし]

<議題（1）委員長・副委員長の選任について>

委員長の選任にあたり、中央保健福祉センター宮葉所長が仮議長を務め、委員の互選により武井委員が委員長に、高橋（功）委員が副委員長に選任され、武井委員長が議長となつた。

<議題（2）幹事会委員の選出について>

幹事会委員の選出にあたり、幹事会委員6名の構成案について資料2、参考資料1により中央区高齢障害支援課矢野主査が説明した。構成案についての意見等はなく、委員長、副委員長、あんしんケアセンター2名を除いた幹事会委員2名について、委員の互選に

より伊藤委員及び長嶋委員が選出された。

<議題（3）令和6年度の地域活動取組状況報告書の確定について>

社会福祉協議会中央区事務所鈴木副所長から、資料3の総括表や個票の評価についての説明があった。質問等はなく、令和6年度の地域活動取組状況報告書の内容が確定した。

<議題（4）高齢者のゴミ出し支援について>

中央区高齢障害支援課矢野主査から、参考資料2、資料4-1についての説明があり、地域支え合い活動をしている地区部会から資料4-1を使用しながら発表があった。

(東千葉地区部会：村井委員)

「ハッピータウンの会」は有志の会で会員は100名くらい。趣旨に賛同した人が最初に少しお金を払って2002年に立ち上げた団体で、ポイント制を採用。同じ年に東千葉地区部会もできて、2005年に「ちょっとボランティア」を開始、有料でチケット（チケット料金：500円）を購入していただく方式を採用。2014年に「見守りネット東千葉」を作り、アンケートを全世帯に配付。平常時、日常的に見守りを必要としている方は5～6人（1桁）、災害時に見守りをしてほしい方はその10倍くらいいたが、災害時の見守りは町内自治会と一緒にやらないと難しく、その当時は町内自治会との協力体制はあまりなかったことから、社協地区部会では平常時の見守りをすることとし、外から窓が開いているかなどの印を互いに決めて、1人の人を近所の方3人くらいが交替で見守ることとした。「ちょっとボランティア」は車で病院へ送迎してほしいなどの要望はあったが、それ以外はあまりなく、チケットをなくしてしまう方がいた。「ハッピータウンの会」は、お互いにできることを書いた一覧表を作成し、自分がやってほしいときにその表を見て電話をするといったやりかたをしていた。使い方が組織によって違い、ニーズもあまりなく、広めるのも難しいことから、2017年に3つの組織を統合して、「ハッピーボランティア東千葉」という組織を作った。

その際に実施したアンケートが資料4-2のハピボラ アンケート。ほかの方が困ったときにできることを知るほか、趣味・特技・知識・技能などについて把握し、敬老会のときにマジックや踊りなどを発表していただいたら、縫物ができる人に裾上げをお願いしたりすることがあった。資料4-3のハピボラカードを作り、同じ地域に住む人が互いにできることを助け合って、行政や専門職・企業の力も活用して、一人一人が安心して暮らせる東千葉にということを目標に掲げて、地区部会で携帯電話を用意。電話が来た方の要望を聞いて、やってもらえる方を探して、手続きをするコーディネーターが6人（現在は5人）おり、年2回電話当番が回ってくる。ポイントを購入するとカード（折りたたみ式）の裏面の利用者欄にハンコが押される。基本、30分=100ポイント（円）なので、ほしい分のポイント（例えば500ポイントや1000ポイント）を予め購入していただき、利用するときにボランティアにそのポイントを支払うやり方をしている。コーディネーターは100ポイント⇒100円に換金ができるがたまってから換金する方が多い。アンケートに回答していただいた方やいろいろなところで知り合った方に特技ややれることを聞いているので、コーディネーターができそうな方に電話をして依頼しており、特に協力員という組織ではなく、住民すべてが協力員といったスタンス。

(白旗台地区部会：土屋委員)

平成28年度に検討委員会を設置し、地域活性化支援事業補助金をもらって、アンケートを実施（世帯数：7000世帯以上）。社協地区部会として、どのような助け合いができるか検討を開始し、アンケートの結果から、どのような要望があるかを調査し、買い物、庭の草取り、ゴミ出し、電球の取り替えの4つから始めることにした。アンケートから無料だと頼みづらいといった意見があったことから、有料とした。また、協力者についてのアンケートも合わせて実施したところ、280人くらいの協力者がおり、次の年から協力者を集めて、どのような支援をするのか、お金の受け取り方などについての説明会を開催した。

白旗台地区部会ではコーディネーターが決まらなかつたため、社協中央区事務所（ボランティアセンター）の職員の方にコーディネーターをお願いすることになった。「きずな隊」という組織を作り、チラシを全戸配付した。1回配っただけではまだ浸透しなかつたので、2回配付した。ゴミ出し支援の希望が一番多く、あんしんケアセンターからコーディネーターにつながつた地域もあつた。昨年度からは市の高齢者等ごみ出し支援事業補助金ももらうようになり、活動を継続している。買い物、庭の草取り、電球の取り替えというメニューも作ったが、電球の取り替えは最近LED電球になつたので、ほとんどなし。協力者の一覧を作成し、コーディネーターがその中から探してマッチングしているので、ゴミ出しもすぐ決まるし、草取りも同じ方がやることが多いようだが、マッチングできている。買い物については協力者が20数人で、新型コロナの時期もあったので、買い物支援はあまりなく、毎月1回買い物をお願いしている人が1人いるくらい。あんしんケアセンターからヘルパーが買い物をすると、時間的にも点数的にも不足し、また、ヘルパーが不足している話も聞くので、買い物支援としてどのような対応ができるか、今年度中にルールを作る予定。

(末広地区部会：秋元委員)

最近、ゴミ出し支援の要望があるが、他人の家に入るので、非常に難しい。車いすの方を近所の方が助けてゴミ出しをしているケースがあるが、その支援者は高齢者等ごみ出し支援事業補助金をもらいたくないことから、今はボランティアとして実施している。

また、災害弱者については民生委員が主体となって調査し、災害弱者に2～3人つけて、災害時に助け合うことを進めており、今年度中に完成させようかと。買い物などについては民生委員が実情をよく知っているので、民生委員を中心に支援をしている。

(松波地区部会：小野寺委員)

社協地区部会でも町内自治会でもなく、松波お助けマンクラブという有志の方により組織されたグループがゴミ出しの支援をしている。夏場の草取りや電球の交換、大きな家具の廃棄、ボタンの取り付けなどもしており、今多いのは夏場の草取りと週2回のゴミ出し支援。元民生委員だった方が支援をしており、無料だと使いづらいことからワンコイン制になっているが、ゴミの量や回数に応じて料金が異なっている。

(生浜地区部会：長嶋委員)

試験的にゴミ出し支援をしている段階。昨年8月にあんしんケアセンター職員も参加してもらって、活動推進員を対象にゴミ出し支援についてグループ討議を行つたところ、全体的には実施していくことになり、支援者を募集するため、いきいきサロン参加者にアンケートを実施。75歳以上の方を対象にした高齢者実態調査の際に、民生委員からゴミ出し支援が必要か聞いてもらったところ、8世帯から必要ありとの回答があつたため、それ

ぞの世帯について実態を確認とともに、具体的な取組みについて、これから検討をしていく。

(松ヶ丘地区部会：伊藤委員)

福祉ネットワーク委員会の中に、2010年に高齢者お助け隊（高齢者が高齢者宅を訪問し、2時間以内で作業する。）を作り、庭の草取りなどをしており、長続きするように、有料にしている（1時間あたり500円で、今年度から1時間あたり700円に変更。）。また、見守り活動を町内自治会が実施すると社協地区部会から町内自治会に5000円の助成金が出るが町内自治会長会議を何回かしたところできないとの回答があったため、見守り委員会を立ち上げた。松ヶ丘の商店街から遠く、買い物がしづらい地域があるため、とくしま（移動スーパー）に週2回来てもらっており、好評のこと。

ゴミ出し支援については町内自治会にまかせている。

(武井委員長)

6つの地区部会から地域支え合い活動の実施状況について説明がありましたが、これから取り組むところも多いと思います。実施されている地区部会でもほかの地区部会でのやり方についてもう少し聞きたいところもあると思いますので、ご質問やご意見等がありましたら、ご発言をお願いします。私からは東千葉地区部会について、現金ではなく、チケット購入制にした理由を聞きたいです。

(東千葉地区部会：村井委員)

ボランティアをする方はボランティア精神でやっているので、お金をもらうと気が重く、責任を感じてしまう。また、実際にあった事例で、1時間で家具の移動などを2人に頼んだ際に早く終わったところ、お金を払って頼んでいるのであれもやってこれもやってと便利屋さんのように使われ、ボランティアの方が二度とその家には行かないといったことがあった。現金だとそのような感覚がどうしても出てしまうので、チケット制（ポイント制）にしている。

また、2024年度（令和6年度）の実績について、補足します。全体で161件の依頼があり、ゴミ出し支援（週2回なので件数は多め）が131件、オーディオ・パソコン関係の相談等が12件、薬の受け取りが6件、病院の付添いが6件、買い物支援が5件、ベッド・マットの運び出しが1件だった。燃えるゴミのゴミ出しは朝8時までにゴミステーションに出さないといけなくて、週2回なので遠くから行くのはすごく負担なため、できるだけ近くの人がやっており、今依頼されているのはマンションに住んでいる方のため、マンションの方で自分のついでにやってもらえる方にお願いしている。どちらかというと、ゴミ出しをしながら見守りをしているという要素が強いので、週2回のゴミ出しの当日、電話をかけてきてもらっている。利用者はひとり暮らし高齢者が多く、電話をすることを忘れてしまう時もあるので、電話がかかってこない時は予め同意を得たうえでこちらから電話をしている。ゴミ出しは近くの支援者の力を借りないと難しく、マンションの場合はそのマンションのゴミ出しのルールなどもあるので、それについて検討していただき、提案していただくよう依頼している。

(生浜地区部会：長嶋委員)

ゴミ出し支援をする場合、隣の5～6件の範囲で支援をお願いしようと思っているが、近くに支援者がおらず、遠くから支援をしている事例はありますか。実際、近所の方が支援しているケースが多いですか。

(武井委員長)

白旗台地区部会ではそんなに遠くない範囲で支援する人を見つけることができている。年間400件以上の実績があるが、町内自治会で実施しているケースも数十件あると思う。どちらかというと、隣近所の方にやってもらい、そういう方がいない場合は地区部会に申し込んでくださいというスタンスで実施している。

(松ヶ丘地区部会：伊藤委員)

地区部会でやることはいっぱいあるので、ゴミ出し支援は町内自治会に任せたほうがよいと思っている。福祉でやらないといけないときは福祉で、民生委員でやらないといけないときは民生委員というように、相談しながらやるのがよいのでは。

(武井委員長)

そのようなご意見もあるかと思いますが、ケースバイケースで近所の方にやってもらうということもあります、やりにくいということもあったりするので、いくつか選択できる体制にしておくほうがよい気がします。

(武井委員長)

今日の会議を受けて、自分の地区部会でもやってみようか、考えてみようかというところが1つでも増えていただければと思います。

(松ヶ丘地区部会：伊藤委員)

無償ではなかなか続かないでの、有償のボランティアのほうが長続きすると思います。

(あんしんケアセンター千葉寺：堀江委員)

町内自治会などに参加していない方から依頼があったら、どうしていますか。

(東千葉地区部会：村井委員)

東千葉地区部会では、社協地区部会でチラシを全戸配布しているので、その方が社協の活動に参加している・していないかは関係がなく、また、町内自治会に加入している・していないかも関係がない。

(武井委員長)

白旗台地区部会も、チラシを町内自治会に加入している世帯に全戸配付しているが、町内自治会に加入していない方から申し込みがあったとしても利用ができるようになっていく。町内自治会に加入していないと情報が行きづらいといったことはあるが。

(武井委員長)

最後に、生活支援コーディネーターの坂本委員、何かございますか。

(千葉市生活支援コーディネーター（中央区担当）：坂本委員)

勉強になりました。町内自治会に入っていないので断られる事例を目の当たりにしたことがあるので、改善するとよいと思っています。個別の相談についてはまた相談させていただきたいと思います。ありがとうございます。

(武井委員長)

ほかにご質問やご意見等がなければ、議題（4）の発表は以上となります。

<その他について>

【事務局】

令和7年度のスケジュールについて

中央区高齢障害支援課矢野主査から、参考資料3についての説明があった。

夏頃に開催される地域福祉専門分科会の進捗状況等を踏まえて、10月下旬に第2回推進協を開催するか否かを判断することになるが、開催する場合の候補日について、口頭で説明があり、開催する場合は、現時点では都合の悪い委員が少ない10月22日（水曜日）午前10時から、本日と同じボランティア活動室で開催することに決定した。

<閉会>

事務局より議事要旨を千葉市ホームページに公開する旨説明し、午前11時48分、中央区支え合いのまち推進協議会を閉会した。

以上